

## 謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

川村勝彦氏 下関市医師会 8月23日 享年79  
神出毅一郎氏 柳井医師会 9月15日 享年60

## 編集後記

日本の四季特有の「色彩」の変化を最近感じにくくなったのは、ながらくコロナ禍が続くため世相が灰色がかって見えるためなのか、年をとったせいなのか。

月日が変わるの早いもので今年も、もうカブトムシやクワガタが活躍する季節が過ぎ去りつつある。

9月上旬ごろ、ある外科医の先生と雑談をしていたところ、カブトムシの話題となった。話の中で、こども電話相談でカブトムシやクワガタのエサに何をあげるか、という質問に対して、「昆虫ゼリー」、と答えると激怒する有名な先生を知っていますか？と尋ねられた。え、知らない。そもそも「昆虫ゼリー」で正解のような気がするし、子供相手に激怒するって何？なんか面白そうな話なのでネットで調べてみた。

その「有名」な先生というのは、昆虫生態学の大家で多摩動物公園の園長、上野動物園水族館の館長などを歴任された矢島 稔という先生だそうだ。で、こども電話相談というのは「夏休みこども科学電話相談」(NHK ラジオ第1放送)や、「全国こども電話相談室」(JRN 系列)という番組のことで、その筋では名回答者として長年有名な存在であったらしい(らしい、というのは件の「夏休みこども科学電話相談」という番組に出演していたのは1984年から2016年7月21日までで、いまはもう出演していないそうだ)。

その電話相談の中で、「エサは何をあげているの？」との矢島先生の質問に、子供が型通り「昆虫ゼリー」、と答える。すると、矢島先生は「昆虫ゼリーはダメなのよ！」とダメ出しをするのがその筋で話題になっていた、いわゆる鉄板のやり取りだったそうだ。

矢島先生によれば、カブトムシに一番いい、自然に近いエサはリンゴなんだそうだ。ネット情報によると、矢島先生曰く、昆虫ゼリーは昆虫には甘すぎて、ゼリーに入っている防腐剤が昆虫を死なせることもあるため、ダメなのだそうだ。

矢島先生が昆虫ゼリーがダメという理由には、この他にも深い意味があるのかもしれないが、実際には、多種多様な昆虫ゼリーが売られ、使われている。数十年前と比べゼリーの品質も改良されているだろう(矢島先生は御年91歳)。実際、むし業界で有名な東京の「むし社」という会社でも普通に昆虫ゼリーを店頭販売しているし、同社内でむしの生体販売も行っているが、虫かごの中には普通に昆虫ゼリーが入っている。

というわけで、矢島先生が昆虫ゼリーはダメ、という理由を直接聞いてみたいのです。

(理事 藤原 崇)